

■中国：発電事業者、2018年中に石炭火力400万kWを廃止する予定

電力専門紙は2018年4月25日、複数の業界団体が会合を開き、中国国内で過剰となっている石炭火力発電所、および石炭・鉄鋼の生産設備について2018年の廃止計画を発表したと報じた。それによると、2018年中に30万kW以下の発電ユニットを中心に合計400万kW以上を廃止する予定である。石炭や鉄鋼についても年間生産規模を石炭1億5,000万t、鉄鋼3,000万tそれぞれ削減する予定である。なお、政府の「十三・五計画」（2016～2020年）では、2020年末までに石炭火力発電所2,000万kWとともに、石炭を年産8億t分、同じく鉄鋼1億5,000万t分削減することが目標になっており、今回の決定もこの政府方針に従うものである。